

みくに



イチゴ、早く大きくなあれ～！

社会福祉法人 みくに園
障害者支援施設 みくに成人寮
TEL: (0879) 68-3104 FAX: (0879) 68-3920
〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦902-1
HP: <http://www. teshimamikunien. com>

わたしたち強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり、自分の満足を求めるべきではありません。

(ローマの信徒への手紙 15章1節)

「希望へ」

理事長 高田 安司

新年明けましておめでとうございます。

「コロナ禍」の生活が始まってから約2年が経過しました。昨年2月から日本国内で始まったワクチン接種は、希望の持てる効果をもたらし、昨年11月には国内で15か月ぶりに新型コロナ感染での死亡数がゼロになりました。しかし、同月に新型コロナウィルスの変異株の一つ「オミクロン株」が南アフリカで検出され、まだ予断を許さない状況が続いています。オミクロンとはギリシャ文字の15番目です。ギリシャ文字とは、古代ギリシャ人がギリシャ語を表記するために作った文字で、今のギリシャでも使われています。英語などローマ字のアルファベットは26文字、日本語の平仮名は46文字ですが、ギリシャ文字は24文字と少なめです。その順番は、英語ならa b c …ときますが、ギリシャ文字ならアルファ(α)からオメガ(ω)となります。ちなみに英語のアルファベットの語源は、最初のアルファベットと2番目のベータを並べたアルファベータからきているそうです。

変異株はイギリス株、インド株など、最初に見つかった国の名前を使って呼ばれていましたが、WHOは差別や偏見につながるとして、意味の持たないギリシャ文字で表すことにしました。見つかった順にアルファ株、ベータ株、ガンマ株といった具合に名付けます。これまでミュー株までの12種類の変異株が見つかっていましたが、今回はミューの次のニューとクサイを飛ばしてオミクロン株としました。WHOは、ニューは新しいを意味する英語のニューと混合しやすく、クサイは英語で x_i と表記し、 x_i を性にする人が多いので飛ばしたと説明しています。いずれにしても変異株がギリシャ語の最後まで到達しないで一日も早く新型コロナウィルスが終息することを願うばかりです。

一つのウイルスが時代を変えると言っても過言ではなく、悪いことばかりでないこともあります。今回の新型コロナウィルスの影響によって少し前までは大企業等で使われていたパソコンでテレビ会議をする「ZOOM」等での会議形式が日常的に使えるようになったことなど、まさにデジタルの時代への発展をもたらしています。

また新型コロナウィルスに打ち勝とうとしてワクチンや新薬の開発が急ピッチでおこなわれています。人類の知恵比べのようにも思います。

99歳で亡くなった瀬戸内寂聴さんは「神様は人間に耐えられない苦しみは決してお与えになりません。だから、この痛みも苦しみも私は耐えられると信じています」と語っています。試練は、その真っ只中にいる時は、辛いものです。しかしそれを乗り越えた時、より大きなものを得ることができるのなら、力が出てくるような気がします。疲れた時は休んでもいいから、希望を持って少しでも前に進むことができたら、きっといいことがあるに違いありません。

本文を最後に2007年から書き続けた拙い巻頭文の連載を閉じたい。

長年のご愛読を感謝します。

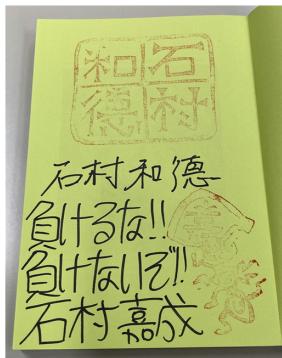
課題図書

みくに園監事の中岡氏から1冊の本を紹介されました。それは『自閉症の画家が世界に羽ばたくまでー亡き母の想いを継いだ苦闘の子育てー』という著書で、重度の自閉症である石村嘉成さんが幼い頃の療育を経て、世界で活躍する画家になるまでの物語です。以前、みくに園に講師として来てくださっていた、トモニ療育センター所長の河島淳子先生が嘉成さんの療育に関わっておられます。その経緯から、今回この本を「課題図書」とし、全職員が読みました。幼い頃の療育の大切さ、自閉症の息子に対し真っすぐに向き合う姿勢、父と母の愛情に、時に涙する場面もありました。

信念を持ち続ける、そして逃げずにしっかりと向き合うことが私たちには必要だと感じました。今後私たちに迷いが生じたとき、この本はきっと背中を押してくれる1冊になると思います。

(大西 記)

それぞれの職員が感じたことをいくつか抜粋して紹介します



石村さん親子のサイン

『自閉症の画家が世界に羽ばたくまでー亡き母の想いを継いだ苦悩の子育てー』
著者：石村和徳・石村有希子
石村嘉成
発行所：株式会社 扶桑社



嘉成さんがアーティストとして世界に羽ばたくまでには、彼自身の努力だけではなく、母、有希子さんの「みんなに好かれる子に育てなきやいかんの」という強い覚悟とその意思を引き継いだ父、和徳さんの努力があった。たくさんの協力者に出会え、画家石村嘉成が存在しているのだと感じた。

我が子を誰からも愛される人に育て上げるための「厳しい療育」への強い決意と覚悟は、嘉成さんへのご両親の愛情そのものであり、療育に関わった忍耐の日々は、その愛情の深さを物語っている。改めて、河島先生の療育のすばらしさ、そしてご両親の諦めない療育への信念に感銘を受けた。

父、和徳さんは自身の経験から自閉症児は尽きることのない好奇心、探求心があり、それが一番の強みと語っていました。確かにそうだと思います。こだわりは強みになる。それを活かした療育を私は目指していきたいと思います。

みくに園は様々な利用者が共同生活を送る、いわば小社会である。本書を読んで私も、そこで生活支援を行う者として、その場しおぎではなく、計画に基づいた一貫性のある療育を、愛情をもって行っていかなければならぬと痛感した。

ご両親の諦めずに挑戦していく姿勢は、これから自分にも必要な部分であると痛感した。利用者にとって自分たちは必要とされる存在である。一人ひとりの個性や特性を認めつつ、適切な支援ができるように職員同士で話し合いながらこれからより一層頑張っていきたい。

リモート見学会

令和3年11月9日、香川県知的障害者福祉協会、人材育成委員会主催の施設見学会が行われました。今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、リモートでの開催となり、以前から見学の希望があったみくに園に決まりました。初めてのリモート見学。みくに園の何を紹介するのか、他の施設の人は何を知りたいのか、上手く伝えられるのかなどみんなで何度も協議を重ねながら準備をしました。



見学会の当日、震えながらカメラを抱える担当者、本番までに何度も練習をした説明者、全体の流れを管理する職員、理事長をはじめ、パソコンの前でドキドキしながら見守る職員、そして、気にかけながら利用者の支援にあたる職員みんなが一丸となり、リモート見学会に臨みました。

おかげさまで、音楽療法の利用者の素晴らしい表情、自閉症者に対する構造化、アート活動や新しい入浴機器、レモンやいちごで働く利用者などを紹介することができました。まだまだ伝えきれなかったこともあります、みなさんみくに園を知ってもらえたことや全職員が力を合わせて成し遂げた達成感など、とても良い経験になりました。

たくさんの施設の方に参加していただき、そして、みくに園にこのような機会をいただき感謝しています。これからも他の施設と切磋琢磨しながら、香川県の障害福祉を盛り上げていきたいと思います。

(松田 記)

クリスマス会

今年度のクリスマス会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、リモートで開催しました。1番館ホールで行われた礼拝を3番館へリモート配信し、みんなでクリスマスをお祝いしました。福田牧師のクリスマスマッセージを聞きながら、今もコロナ禍で大変な思いをしている人たちに心を寄せ、みんながこうして元気にクリスマスを迎えたことに感謝しました。昼食は、厨房職員が腕を振った食事が並び、デザートのチョコレートは、菓子工房職員の手作りでした。

午後からは3番館で祝会を行い、音楽療法に参加している利用者の演奏などで、楽しい時間を過ごすことができました。今年は、コロナが終息し、みんなが心置きなくクリスマスを楽しめる日が来ることを心から願っています。

(古川 記)



みくにえのアート活動

タイトル文字：繁朋宏

昨年11月に豊島公民館で開催された「公民館まつり」に、今回も無事出展することができました。手芸作品や研究発表、模型、懐かしい写真など、豊島の方々のさまざまな作品とともに自分の作品が展示されているのを見ることができ、アート活動のメンバーにとっても良い刺激になったと思います。みくに園のアート活動の雰囲気が少しでも伝わっていたら嬉しいです。公民館の皆様をはじめ、ご協力いただいた方々、会場に足を運んでくださった方々に心から感謝いたします。



喜多さんと三枝さん。
お二人とも大好きな刺繍作品を出展しました。



左から室崎さん、斎藤幸浩さん、松本さん、繁さんの1番館チーム。真剣な表情で作品鑑賞。



米田さんは色鉛筆画、斎藤宏一さんはPOS
CAでのペイントイングを出展しました。



スタッフと「どの作品を出そうか」と相談しているときから、とっても嬉しそうだった樋口さん。

新しい年を迎えました。まだまだ落ち着かない状況は続いているですが、アート活動がホッとくつろげる時間となるよう、今年も微力ながらお手伝いしたいと思っています。いつも応援してくださり、ありがとうございます。

(吉野 記)

ミニ交流会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため一昨年は中止となった豊島中学校との交流会を、昨年の11月に行いました。例年は2時間ほど一緒に競技を楽しむ交流会ですが、今回は、中学生の「よさこいソーラン節」の踊りや手遊びなどを披露していただきました。



人との距離を取らなければならない時代ですが、こうして中学生のみなさんが、一生懸命みくに園の人たちのことを考えてくださっていることに胸が熱くなりました。

新型コロナウイルスの影響で、「できないこと」ばかりに目がいってしまいますが、工夫することで「できること」もたくさんあると、今回の交流会で感じました。

(高橋 記)

2021年12月14日～2022年1月3日まで、岡山県で開催されていた石村嘉成氏の個展「石村嘉成が描く天神どうぶつ園～キリンのサンタロウと仲間たち～」に行ってきました。実物の絵の迫力に感動。そして、嘉成さんの誰からも愛される人柄に魅了されました。

キリンのサンタロウと仲間たち
絵 石村嘉成氏



合同ネットワークしまふくし

小豆島、豊島の小豆圏域ネットワークという団体が合同SNSを立ち上げました。小豆圏の福祉に関わる人たちが、力を合わせていろいろな発信をしています。みくに園も参加しています。ぜひフォローをお願いします！



SHIMAFUKUSHI
しまふくし
インスタグラム
QRコード

この度、みくに園内に安全カメラを設置しました。
利用者の安全と防犯に役立てています。

編集後記

年が明けて約2週間経ちました。落ち着いてきたと思っていた新型コロナウイルスが年明けから再び猛威を振るっています。新型コロナウイルスの発生から約2年。今年こそは新型コロナウイルスが落ち着き、皆が気兼ねなく外出や旅行に行ける日が来ることを願っています。本年もよろしくお願ひ致します。

*みくにだよりへのご意見をお待ちしています。
E-mail:kgk03317@nifty.com FAX:0879-68-3920